



集落支援員だより



発行 登米市吉田公民館

TEL : 0220-55-2124

吉田コミュニティ運営協議会

検索

(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会) FAX : 0220-55-4528



コミュニティ事業の今後の予定について

第25回吉田地区新春交歓会 中止

第24回世代間交流レクリエーション大会 中止

12月24日(金)はキッズクリスマス会の為、午前中は体育館(グラウンドゴルフ)を利用出来ません。

米山中学校区合同防災訓練 実施



11月27日(土)米山東小学校で水害を想定した防災訓練が行われました。参加者は吉田地区の小学生、中学生、防災危機対策室、米山総合支所、小学校職員、PTA役員、消防団、社会福祉協議会、読み聞かせボランティア、行政区長、吉田コミュニティ運営協議会が集まりました。幅広い世代の総合的な防災訓練は初めての試みでしたが、参加者全員が高い意識を持ち、効果的な防災訓練が出来ました。

当日の朝に各集会所や吉田公民館、善王寺コミュニティセンターに集まり、開会行事を行いました。その後、バスと徒歩で米山東小学校に移動し、小学生は図工室と多目的室で防災ミーティングを行いました。防災読本読み聞かせや防災カルタ、クロスロードゲームで防災について学びました。中学生は体育館に移動し、避難所設営と運営体験を行いました。事前に避難所設営を練習してきたので、スムーズにテントの組み立てや、簡易ベッドの設置が出来ました。その後、避難所運営を体験する為に避難民の受付や避難所案内、救護者対応を行いました。自然災害は突然起こります。

今回の防災訓練で学んだことをこれからの生活に活かしていこうと思いました。

迫川開削工事開始90年記念講演会 開催



山吉田水門

講演する橋本氏

剣崎 旧北上川合流地点

11月15日(月)中津山公民館で「迫川開削工事開始90年記念講演会」を米山・中津山・吉田公民館3館合同事業として開催しました。

当日は100人を超える市民・関係者が集まり、元宮城県土木部長の橋本潔氏をメイン講師に迎え「ふるさとの川ものがたり～迫川改修90年の歩みとこれから～」と題して講演していただきました。橋本氏の講

演前に予習を兼ねて迫川上流に昭和32年に完成した花山ダムの建設記録映像や豊里町剣崎の旧北上川合流地点から山吉田水門までの迫川を上空からドローンで撮影した映像を視聴しました。

講演は、迫川の過去、現在、これからと三部構成で主な講演内容は以下のとおりでした。当日拝聴できなかった多くの皆さんにそのエキスポ部分をお伝えします。

- ・江戸時代初頭までの北上川は中田町上沼大泉から宝江、森を經由して迫川と合流して現在の旧迫川と同じ川筋で流れていた。登米市の平野部は大湿原だった。
- ・江戸時代の始めに北上川の急流を緩和させるため米谷付近で二股川と合流させ、柳津方面に流路を変えた。その後も北上川に迫川・江合川を合流させ、石巻へ流れるようにした。
- ・舟運で石巻は栄えたが、和渚の狭窄部で逆水（背水・バックウォーター）現象を起こすことになり、迫川沿岸地域は水害が頻繁に起こるようになり、甚大な被害を受けた。
- ・仙台藩は河川改修を進めていたが、その際に米岡出身で新田村の源内が迫川の直線化と和渚狭窄部の改修を提言した。その後も何回も陳情・請願が繰り返されたが財政難のため実現できず明治時代を迎えた。
- ・記録の残る明治時代の水害は7回、大正年間では2回、大正9年が最後であった。
- ・明治政府は北上川の改修を急ぎ昭和6年までに現在の新旧北上川の流れとなった。これを受けて昭和7年に全国初の河川改修国庫補助事業として迫川の直線化工事が始まり、昭和15年に完成した。源内の提言から約250年も経ってからの着工であった。
- ・総事業費は3,487,300円（精算額）で、現在の貨幣価値に換算すると42億円から51億円となる大工事だった。ソントランダーエキスカ、蒸気機関車、プリストマンバケット浚渫船や馬力、人力を使い、剣崎から山吉田まで32kmあったものを11.7km、川幅240mの新たな河道（捷水路）をわずか7年で開削した。先人の英知と技術力に感服し敬意を表する。
- ・同時期に始まった短台谷地の開墾も大きく進展して農地面積が飛躍的に増加した。
- ・迫川は上流部が急峻で中下流部が低平地で勾配が緩い、市街地（若柳・佐沼）が狭窄部（川幅が狭い）、旧北上川の背水の影響を受けるなど全国屈指の難治河川（治めるのが難しい河川）である。
- ・昭和22年のカスリン台風、昭和23年のアイオン台風で甚大な水害被害を受けたことから迫川改良全体計画が立案され、大規模施設の花山ダム、栗駒ダム、南谷地遊水地、長沼遊水地などが計画され、その後蕪栗遊水地も採択され事業の進捗が図られた。
- ・流域の治水事業は着々と進められ、昭和46年には長沼ダムの建設が始まり、43年かかって平成26年に完成した。完成した矢先の平成27年9月の関東・東北豪雨では長沼ダムと南谷地遊水地に水を引き入れたので、登米市内を洪水から防ぐことができた。長沼ダムがなかったらと考えるとゾッとする。
- ・今後、地球温暖化の影響でスーパー台風が発生する。しかも台風の通過コースが太平洋側が変わり、カスリン台風やアイオン台風と同じような経路をたどることが予想される。なお一層の備えをしなければならない。
- ・江戸時代からの地域の悲願であった新川開削工事以来90年、迫川の改修は幾多の災害を乗り越え、先人の英知と努力により引き継がれてきた。今、長沼ダムが完成し、新たな治水の歴史が始まった。治水大計100年というが、「恵水悠久」、迫川流域の未来へ、愛する迫川の清い流れが永遠に続くことを願う。



ソントランダーエキスカ



蒸気機関車



プリストマンバケット浚渫船